

Round 4

レースレポート

■開催概要

- 大会名称 : 2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round4
- 主催 : 関西スポーツカークラブ(KSCC)、グループ・オブ・スピードスポーツ(GSS)、鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 協力 : ARC、AASC、ARCN、KRHC、OCCK、チーム淀
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会(FEクラス)
- 競技 : JAF公認 準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : 総参加台数/202台
 - VITA28台
 - v.Granz20台
 - フォーミュラEnjoy24台
 - スーパーFJ26台
 - TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2025 第6大会
 - クラブマンシリーズ...55台 プロフェッショナルシリーズ...34台
 - 2025 Porsche Sprint Challenge Japan Round 5&6...15台
- 開催日 : 2025年10月4日(土)・5日(日)
- 天候・路面 : 4日(土) 曇後雨/ウェット
5日(日) 曇後雨/ウェット



★レースリザルトは
ウェブサイトでご覧いただけます
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE Final Round
- 開催日 : 2025年12月6日(土)・7日(日)
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : スーパーFJ、FIT 1.5 Challenge Cup、VITA(2レース)、v.Granz、フォーミュラEnjoy、2025 N-ONE OWNER'S CUP FINAL



予選、決勝ともウェットコンディションとなった第4戦。それでも最後に行ったスーパーFJのトップ3によるバトルは、雨でもアグレッシブな走りだった

予選、決勝とも雨の週末となった第4戦。 VITA、フォーミュラEnjoyではシリーズチャンピオンが決定！

10月4日(土)、5日(日)の2日間に開催された「SUZUKA CHAMPION CUP RACE」。第4戦を迎え、早くも後半戦。12月の最終戦を待たずして、VITA、フォーミュラEnjoyの2クラスからはシリーズチャンピオンを決めるドライバーも現れるなど、ポイントランキング争いがシビアになってきている。

第4戦では年に一度、鈴鹿サーキットで行われる「GR86/BRZ Cup」も開催。プロフェッショナルシリーズ、クラブマンシリーズそれぞれの予選、決勝レースを戦うチーム&ドライバーを応援しようと、南は沖縄県からも多数の観客が鈴鹿に集合。派手なマシンのカラーリングと相まって、決勝レーススタート前のグリッドは特に華やかだった。

決勝レースを行った5日(日)は、雨が止んだ状態でVITAクラスからスタート進行されたが、午後のフォーミュラEnjoy、スーパーFJは特に雨が強い厳しい路面コンディションとなった。それでもトリを飾ったスーパーFJは、ウェット路面を忘れさせるようなバトルの応酬が繰り広げられた。ハードウェットという状況下で、いつも以上にドライバーが磨き上げてきたスキルの光るレースが見られた。

そして、12月6日(土)、7日(日)が、いよいよ最終戦。第4戦でシリーズチャンピオンを決めたVITAクラスの上田裕司選手、フォーミュラEnjoyの吉田英翔選手の2人は、全勝でのシリーズチャンピオンをかけたバトルになる。



年に一度、鈴鹿にやってくるGR86/BRZ Cup。89台もの参加台数となった

Round 4

レースレポート

■VITA

雨は止んでいるが前日の雨の影響が残り、ウェットコンディションでレーススタート。ポールポジションは中里紀夫だったが、4番グリッドの上田裕司がホールショットを奪う。ジェントルマンクラスのトップは8番グリッドからスタートした鍋家武、さらに備後博司、大野宗と続く。オープニングラップの2コーナーで複数台がコースアウト。早くもセーフティカーが入ることになる。4周目からリスタートされ、上位陣は上田を先頭に中里、米田弘幸と続く。その後もコースアウトを喫するマシンがあり、2度目のセーフティカーランとなるなど荒れた展開が続く。それでも、2025年シーズンは負けなしの上田はスタートで奪ったトップを守り切ってトップチェッカー。最終戦は2レース制にも関わらず、ひと足早くシリーズチャンピオンを確定させた。



朝一番、午前8時15分に決勝レースはスタート。前日の雨が残る路面がレースを難しくした



優勝の上田裕司がシリーズチャンピオンを確定。2位に中里紀夫、3位は米田弘幸

Round 4

レースレポート

■VITA ジェントルマンクラス



ジェントルマンクラスは総合8位の鍋家武がクラス優勝。9位の木村一廊がクラス2位

Round 4

レースレポート

■Porsche Sprint Challenge Japan 第5戦/第6戦

10月5日(日)の午前に第5戦、午後に第6戦を開催。GT3- I クラスは第5戦、第6戦ともに内山清士が優勝。なかでも第6戦、2番グリッドスタートだった内山清士は果敢な走りでトップを走るKEN YAMAMOTOを逆転してみせた。



第5戦の決勝レースでグリッド上に並ぶマシン。レースは内山清士がポールtoウィン



第5戦、GT3- I クラスの表彰式。優勝は内山清士、2位にKEN YAMAMOTO、3位の橋村剛が表彰台でトロフィーを掲げた

レースレポート

■GR86/BRZ Cup

プロ、アマチュアが参戦する国内最大級のワンメイクレース「GR86/BRZ Cup」。クラブマンシリーズは2位に7秒735もの大差をつける走り、Naquib Azianが優勝。プロフェッショナルシリーズは蒲生尚弥が優勝。2位の堤優威、3位の井口卓人、さらに4位の岡本大地と上位陣のバトルは見ごたえあるものとなった。



プロフェッショナルシリーズで優勝を果たした蒲生尚弥



プロフェッショナルシリーズ表彰式。優勝は蒲生尚弥、2位に堤優威、3位には井口卓人

Round 4

レースレポート

■フォーミュラEnjoy

ポールポジションは開幕戦から連勝を続ける吉田英翔。2番グリッドは中島一郎、Bagnall Alexanderが続く。8番グリッドはマイスターズ・カップのトップ、ジョニー小倉がついた。吉田は好スタートを決め、開始直後から2番手を引き離す。中島とBagnall Alexanderの2番手争いが展開されると、2周目でストップしたマシンがありセーフティカーランになる。レースが再開されると、雨が強くなり路面はヘビーウェットへ。それでもマイスターズ・カップのジョニー小倉は総合でも6番手に順位を上げる。吉田はそのまま単独走行を続けトップチェッカー。最終戦前にチャンピオンが確定。マイスターズ・カップは総合7位のジョニー小倉がクラス優勝となった。



ポールtoウィンの吉田英翔は完勝と呼べるレース運びだった



優勝は吉田英翔。2位の中島一郎、3位のBagnall Alexanderの2位争いも白熱した

■フォーミュラEnjoy マイスターズ・カップ表彰



マイスターズ・カップの優勝は総合7位のジョニー小倉。クラス2位の土屋務は総合8位、クラス3位の長谷川英裕は総合9位と奮闘した

Round 4

レースレポート

■スーパーFJ

ヘビーウェットの路面でレーススタート。ポールポジションから武者利仁、2番グリッドに酒井翔太、さらに箕浦稜己、杉田悠真が続く。酒井は序盤からトップに出ると箕浦、杉田を含めトップ3を形成する。酒井と箕浦はテールtoノーズでトップを争う。雨のなか猛烈なデッドヒートを繰り広げ、2番手を走る箕浦は酒井をパスしてトップへ。単独3番手は吉田馨が走る。3周目、コースアウトしたマシンの影響からセーフティカーランになる。ジェントルマンクラスも接戦となり、17番手を走る山根一人をクラストップに、すぐ後ろを古里拓、中嶋匠が猛追する。残り5周でレース再開。レース終盤でも、トップの箕浦はペースを落とさずに、嬉しい鈴鹿での自身初優勝。2位は酒井、3位に吉田となった。ジェントルマンクラスは総合16位の山根が優勝を果たした。



鈴鹿初優勝の箕浦稜己。酒井翔太をパスしたアウト側からの追い抜きは見事だった



表彰台に立つ3選手。2位の酒井翔太にあと一步まで迫った3位の吉田馨

■スーパーFJジェントルマンクラス



ジェントルマンクラスは総合16位の山根一人が優勝。2位に中嶋匠、3位は古里拓だった

レースレポート

Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光った
ドライバーに問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

フォーミュラEnjoyで昨年から9連勝、
最終戦を前にしてチャンピオン決定！

吉田 英翔 選手 (K&G RACING C72 FE2)



Q:決勝レース途中から雨が強くなり難しいレースでしたが、印象はありますか？

「土曜日の予選でウェットを経験できたことも良かった。他のドライバーに比べて、実車で練習時間に不安にありますが、反省点をしっかりつづしてレースに臨んでいます」

Q:昨年10月にフォーミュラEnjoyで初優勝してから負けていません、今どんな気持ちですか？

「周囲からは順調に見えるようですが、まったくそんなことはなくて…。表彰台では勝った喜びを爆発させていますが、レース前後や練習中、他のドライバーのタイムを知って、すごくプレッシャーに感じることも多かった。試行錯誤しながら勝ててきました」

Q:来シーズン以降の目標を聞かせてください

「さらに上位カテゴリーに進むためにも、2026年からはスーパーFJに挑戦する予定です。そこで自分がどこまでできるのか。家族やチームの皆さんの期待に応えられるように頑張りたいです」